

か け は し

3学期は1年のしめくくりの学期・・・確かなめあてを

保護者の皆様、地域の皆様、あけましておめでとうございます。本校の教育に対しまして、ご理解とご協力頂ありがとうございます。本年も昨年同様よろしくお願い致します。

さて、3学期は1年間のしめくくりの学期にあたります。6年生は中学校へ他の学年は一つ上の学年へと進級していくための準備期間の学期です。この1年間を振り返り、学習や生活の中で何が足りなかったのか、お子さんとしっかり話し合いをして、新しい学年へ向け、確かなめあてを持たせ、次年度に向けての準備をしてもらいたいものです。

「大人の責任」というスタンスで「子育て」を

「近頃の子どもは・・・」という言葉を目にします。私が子どもの頃から言われてきた言葉です。しかし、「そういう子どもにしたのは誰ですか」と、私も含め大人たちは自分に問い返さなければならないと思います。

少し難しい話になりますが、人間の脳は、生まれた時は、他の動物に比べ、非常に未熟だと言われています。他の生き物は、生まれた時は体は小さいのに、脳はほとんど大人と同じくらい成熟して生まれてくると言われています。そのため、人間は他の生き物と違って自分で生きていくために色々なことを学ばなければなりません。人間は、三歳くらいになるとこれといった特別なことをさせたりはしないのに、言葉は日常生活で不自由しないくらいまで覚えてしまいます。これは、本来人間の内側に備わった能力が自然と育ってくるのではないかと考えられています。また、日本人の子どもでもアメリカで暮らしていれば、英語を話すようになります。これは、覚える中身は外から与えられたものだということになります。

「近頃の子どもはあいさつをしない」「大人はあいさつをしていますか」「近頃の子どもは言葉使いが悪い」でも、「私たち大人の言葉使いはよいですか」「言うことかかない子どもが増えた」でも、「私たちのマナーやルールは守られていますか」等々、大人の言動が一番問題になるのではないのでしょうか。

子どもは大人になるまでに、多くのことを学び学習しなければ自分で生きていくことはできません。子どもが悪いのは、私たち大人一人一人の責任であるという意識を持ってもらいたいことです。そして、できることから自分を変えることや周りの人に伝えることが大事であると思います。

～家族の変化と子どもたちの変化（小さくなった家族）～

家族というと“夫婦と子ども”を思い浮かべる人が多いと思いますが、子どもをもつ世帯の割合は、減少の一途をたどっています。「もしも世界が100人の村だったら」にならって、「もしも日本が100軒の世帯からなる村だったら」と考えると、74軒は家に子どもはいません。26軒が子どものいる世帯で、そのうち11軒は子どもが1人しかいないこととなります。(厚生労働省「国民生活意識調査より)子どものいる世帯の平均子ども数は、1.72人と非常に少ないこととなります。

さらに、現在家族では、雇用労働者の父親は家庭の外で、もっぱら過ごしており、子どもと過ごす人の数が減り、まさに家庭は空洞化状態にあると言えます。子どもが生まれ育つ家族は、モノの面では戦後一貫して豊かになってきましたが、ヒトについては、貧しさの一途をたどっていると言ってよいでしょう。

大勢の人が一緒に生活していれば、入浴や洗面にもおのずと順番や使い方のルールが必要になります。兄弟が多ければ、我慢したり協力したりすることを自然に学びます。兄や姉が叱られたり、誉められたりするのを見て、学ぶことも日常的にできるはずで。

性や年齢、立場の異なる様々な人と接することで、子どもは情緒や言語や社会性などを発達させていくことができるわけです。

今日では、第一子の出産前後に仕事を辞める母親は61%に上がっており、乳幼児期の子どもは、ほとんど母親と家庭で過ごす場合が多いこととなります。子どもが小さいうちは、「育児は母親の仕事」と考える社会通念がまだ残っていて、子育ての責任をもっぱら引き受けることとなります。しかし、育児は母親だけがするものではありません。家族だけでなく、周りの大人たちの力をかりながらしていくものです。

この乳幼児期は、子どものコミュニケーション能力が大きく育つ時期です。子どもが「みず」と言えば、黙って水の入ったコップを差し出すと、子どもは、「みずをください」や「ありがとう」という言葉を学ばないこととなります。時には、子どもが言葉を発する前に、要求を察して処理してしまうことさえあります。

家庭の中では、せめて、子どもが自分からの要求をきちんと発するまで待つという大人の姿勢が大切なことだと思われま。



3学期が始まり、子どもたちの元気な声が校舎や運動場に戻ってきました。寒さに負けず休み時間になると子どもたちは、なわとびをしたり、おにごっこをしたりして元気いっぱい運動場で遊んでいます。風邪をひかないように、休み時間の後や給食の前には手洗いやうがいの声かけをしています。

始業式では、校長先生から「冬休みの反省をして3学期のめあてを立てましょう。沖代小学校の校訓『たのしい学校、やりぬく子ども』になるために一人ひとりがどうしたらよいかを考えよう。」というお話がありました。学級にもどり、子どもたちは自分のめあてをしっかりと考えていました。めあてが守れるように、励まし続けていきたいと思っています。

「スマホに支配されないように！」～責任あるIT機器を教えたかった母親の話～

ティーンが何かを欲しがると、「みんな持っている！」という主張は、よくある話です。アメリカでは、14～17歳の25%、日本では、高校生の39%が所有しているスマートフォン。携帯電話になるとこの数は、7割近くにも増えます。

自分用のパソコンより今や所有率が高く、利用の仕方が中毒のように長時間になりがちなスマホを買い与えるのに何と18項目の「契約条件」に従った場合のみ使用を許す、とした母親の考慮が素晴らしいと今話題になっています。

「中毒のように依存したり、乱用したりすることがないように、責任あるIT機器の使い方を教えたかったんです。」と語るのは、米国マサチューセッツ州在住のジャーネル・ホフマンさん。

母親のジャーネル・ホフマンさんは、息子のグレゴリーくんに欲しがっていたiPhoneをプレゼントしたのですが、これに「使用契約書」が付けられていました。前置きに「メリークリスマス。あなたは今からiPhoneを持てますが、テクノロジーに振り回されることなく、健康でしっかりとした青年に育てるのが私の役目」と書き、18のルールが並んでいました。内容は長いので、短くまとめています。

皆さんは、この評判になっている「契約書」をどう思いますか。

- (1) このiPhoneは私が買った。あなた(息子)に貸している。
- (2) パスワードは私(母)が管理する。
- (3) これは電話。鳴ったら出ること。「父」「母」とスクリーンに着信表示された時、無視してはいけない。
- (4) 学校がある日は午後7時半、週末は9時に親にあずけること。
- (5) 学校に持って行ってはいけない。メールする友だちとは直接話さない。会話は人生のスキルです。
- (6) 破損したら、修理はあなたの責任。お小遣いなどを貯金して賄うこと。
- (7) ウソをついたりバカにしたり、人を傷つけることにテクノロジーを使わない。
- (8) 面と向き合って言えないことはメールで送らない。
- (9) 友だちの親の前で言えないことをメールしてはいけない。
- (10) ポルノ禁止。情報は私と共有。知りたいことは私かVIPに聞いて。
- (11) 公の場では電源を切るかマナーモードにする。特にレストラン、映画館、または、他の人と会話している時。
- (12) 大事な部分の写真をやりとりなどしないこと。インターネットは巨大で強力。消すのは難しい。
- (13) 写真やビデオのすべてを記録する必要はない。自分自身の体験を大切に。体験は永遠に残るもの。
- (14) ときどき家に置いていきなさい。携帯は生き物でもあなたの一部でもない。これなしでも暮らしていける。取り残されるのを恐れず、器の大きい人間になりなさい。
- (15) いい音楽をダウンロードして聴きなさい。視野を広げなさい。
- (16) 言葉遊びやパズル、クイズのような頭の体操系ゲームで時々遊びなさい。
- (17) 上を向いて歩きなさい。周囲の世界に目を向けなさい。会話をしなさい。グーグルで検索をしなさい。思考しなさい。
- (18) 約束を守れなかったら没収します。もう1度話し合い、はじめからやり直しましょう。あなたと私は常に学んでいるチームメイトです。一緒に答えを出していきましょう。

※スマホの便利さと弊害よく知った見事な母親。スマホがあれば便利だろうなどは思うけれど、なければなくて生きていける。便利な時代に生きる私たち。そして、子どもたちも早かれ遅かれいつか欲しがるとの日が来る。その時まで。